

第4学年 総合的な学習の時間【R6 授業】

【研究テーマ】令和5・6年度 清瀬小学校 校内研究

いのちの学習～教科横断的な6年間の学習プログラムの作成を通して～

1 ブロック目標 「いのちプロジェクト中学年～いのちの尊さを実感する児童の育成～」

2 単元名 「いのちのあゆみ ～年をとるってどういうこと?～」

3 単元の目標

- (1) 高齢者との触れ合いやこれまでの経験を通して課題を設定し、達成のために必要な情報を集めたり、話し合ったりすることができる。
- (2) 高齢者の生活や思いなどについて知り、いのちの尊さ（いのちはかけがえないものであること）を実感することができる。

4 単元の評価規準

評価の観点		単元の評価規準
ア 知識・技能		① 高齢に伴う様々な変化や生活の様子などを大まかに知ることができる。 ② 交流活動などを通して高齢者の思いや生き方に触れ、いのちや生きることの尊さ（いのちはかけがえないものであること）を実感することができる。
イ 思考・判断・表現	1 課題設定	① 体験活動などを通して感じたことや考えたことを共有し、課題を設定することができる。
	2 情報収集	② 課題の達成に必要な情報や手段を選択して、情報の収集をすることができる。
	3 整理分析	③ 集めた情報を整理分析し、必要な情報を選びながら課題の達成に向かうことができる。
	4 まとめ・表現	④ 情報収集活動を通して感じた自分の思いや考えを、相手意識をもってまとめ、伝えることができる。
ウ 主体的に学習に取り組む態度	1 自分自身に関すること	① 課題の達成に向け、探究活動にすすんで取り組もうとしている。 ② 高齢者について学ぶことでいのちには限りがあることに気付き、いのちや生きることの大切さについて見つめ直すことができる。
	2 他者や社会との関わりに関すること	③ 友達の考えとの相違点や根拠を理解するとともに、協働して学び合おうとしている。

5 指導観

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月 告示）第 5 章総合的な学習の時間から、主に下記の内容に基づき設定している。

第 2 各学校において定める目標及び内容

2 内容

各学校においては、第 1 の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

3 各学校において定める目標及び内容の取扱い

(1)各学校において定める目標については、各学校における教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。

(2)各学校において定める目標及び内容については、日常生活との関わりを重視すること。

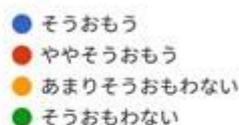
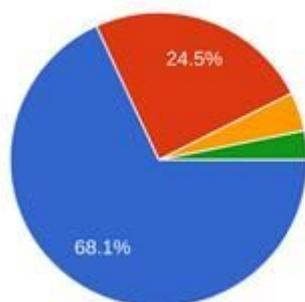
本校の教育目標を具現化する学校経営方針に「生き方を学ばせるキャリア教育の実践（いのちの学習の実践）」とある。「いのちの学習」において、中学年では「いのちの尊さ」について児童が実感をもって学習できるようにしていく。

本単元では、「いのちのたんじょう」、「いのちのあゆみ」、障害者理解を含めた「ともに生きる」から構成されている。これらを「いのちのつながり」としてひとつの単元として学習していく。探求的な学習過程の中で、児童がいのちの有限性やいのちの誕生がいかにかに奇跡的であるかについて考える。本単元を通して、児童が「いのちの尊さ」について実感できるようにしていきたい。

(2) 児童観

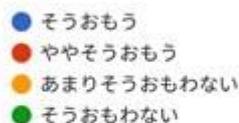
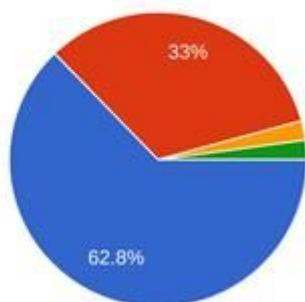
④自分のことを大切にできていますか。

94 件の回答



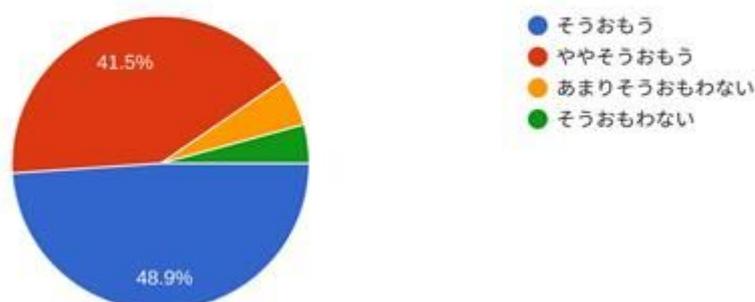
⑤身の周りの人を大切にできていますか。

94 件の回答



⑥身の周りの人から大切にされているされていると感じますか。

94件の回答



今年度5月実施の児童意識調査によると、④「自分のことを大切にしていますか」という質問に対して1割弱の児童が、⑤「身の周りの人を大切にできていますか。」という質問に対して1割弱の児童が否定的な回答をしている。いのちは大切なものと理解しながら、身近な相手や自分自身のことを大切にできていない児童がいるという実態がある。また、⑥「身の周りの人が、自分のことを大切にしてくれていると感じますか。」という質問に対して肯定的な回答をしたのは、9割であった。⑥の実態は昨年度2月に行った意識調査よりも2ポイント上昇しているが、大きく変わってはいない。引き続き、いのちプロジェクトを通じて、一人ひとりがかけがえのない存在であることを実感させるとともに、自分も相手も大切にできる児童を育てていきたい。

(3) 教材観

先述したように、本単元は、「いのちのたんじょう」「いのちのあゆみ」「ともに生きる」から構成されている。

まず、「いのちのたんじょう」では、赤ちゃんについてのイメージを広げた後に、各自のテーマについて情報収集し、整理分析したものを発表する。その上で、「赤ちゃんとのふれあい活動」で、実際に赤ちゃんに触れ合ったり、赤ちゃんの母親からお話を聞いたりする。

さらに、「いのちのあゆみ」では、高齢者についてのイメージを広げた後に、実際に高齢者と触れ合う中で、各自課題設定をし、そのテーマについて情報収集し、整理分析したものを発表する。

そして、「ともに生きる」では、パラリンピックについてのイメージを広げた後に、各自のテーマについて情報収集し、整理分析したものを発表する。その上で、「ボッチャ体験」や「点字講座」を行い、障害があることを疑似体験する。

このように、本教材は、児童が体験活動を含めた学習をすることで、「いのちの尊さ」について実感をもって学べるものとなっている。

6 単元の指導計画と評価計画

【小単元「いのちのあゆみ ～年をとるってどういうこと?～」全27時間

(「いのちのつながり」全80時間)

時 【時期】 (時間)	目標	○学習内容・学習活動	評価規準 (評価方法)	研究テーマとの関わり ★地域の活用など
【4～7月】 「いのちのたんじょう」 (25時間)	赤ちゃんの成長について知り、自分のいのちの大切さを実感することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○赤ちゃんについて知っていることを出し合う。 ○赤ちゃんについて知りたいことから課題を設定する。 ○それぞれの課題について調べる。 ○ゲストティーチャーを招き、人の誕生についての話を聞き、赤ちゃんに触れ合う。 ○調べたことを google スライドにまとめる。 ○まとめたことを発表する。 ○「いのちのたんじょう」について考えたことをまとめる。 	アー①② (行動観察・ワークシート・発言) イー①②③④ (行動観察・ワークシート・発言) ウー①② (行動観察・ワークシート・発言)	★ウイズアイ
【8～11月】 「いのちのあゆみ」 (27時間)	高齢者について知り、いのちの大切さを実感することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○「高齢者」について知っていることを出し合う。 ○高齢者疑似体験・高齢者との交流会(給食会)を行う。 ○「高齢者」について知りたいこと(調べたいこと)を話し合う(出し合う)。 ○解決の方法を話し合い、自分(たち)の課題をつくる。 ○学習計画を立てる。 ○必要な情報を収集する。 ○認知症サポーター講座を受ける。 ○情報の整理分析をする。 ○調べたことを伝え合う(発表する)。 ○分かったことから高齢者のために自分ができることを考える。(考えの根拠を明らかにする)。 	アー①② (行動観察・ワークシート・発言) イー①②③④ (行動観察・ワークシート・発言) ウー①② (行動観察・ワークシート・発言)	★地域の高齢者 (シルバー人材センターなど) ★認知症サポーター ○資料 「いのちのおはなし」 10歳のきみたちへ

		<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを相手や目的に応じて、工夫して表現する。 ○活動を振り返り、自分の考えを更新したり、新たな課題を見付けたりする。 		
【11～3月】 「ともに生きる」 (25時間)	障害のある方がいることを知り、様々な人々のいのちを大切にしていきたいと考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○「パラリンピック」について知っていることを出し合う。 ○「福祉」について知りたいことを出し合い、自分の課題を見付ける。 ○調べたことを、それぞれの方法でまとめる。 ○ボッチャ体験をする。 ○点字体験をし、清瀬点訳の会の方の話聞く。 ○「福祉」について調べたことを伝え合う。 ○様々な人々と共に生きるために、より暮らしやすい世の中にするために、自分(たち)ができそうなことは何かを考え、表現する。 	<p>アー①② (行動観察・ワークシート・発言)</p> <p>イー①②③④ (行動観察・ワークシート・発言)</p> <p>ウー①② (行動観察・ワークシート・発言)</p>	<p>★ボッチャ体験</p> <p>★点字講座</p>
	様々な「いのちのつながり」、生まれてからの「いのちのあゆみ」について学んだことを振り返り、考えをまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○一年間の学びを振り返り、自分の考えをまとめ、伝え合う。 	<p>アー② (発言・ワークシート)</p> <p>ウー②③ (発言・ワークシート)</p>	

7 本時案

(1) 本時の目標

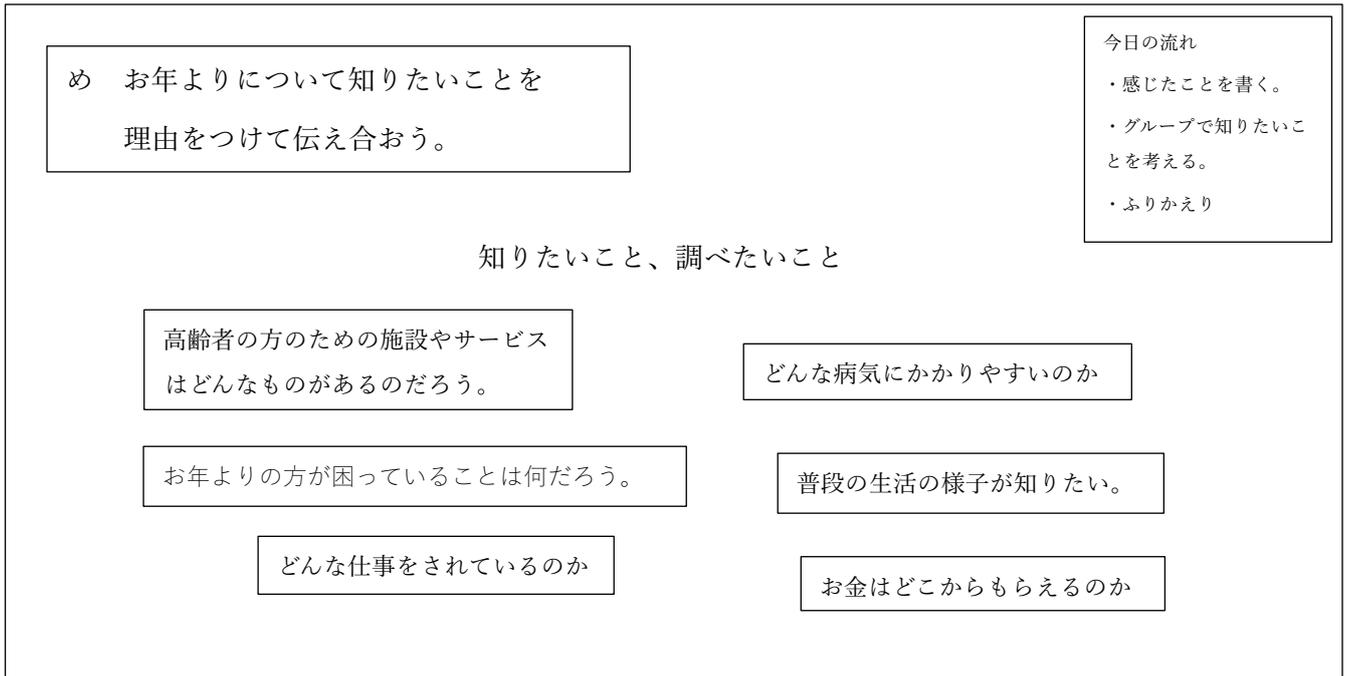
高齢者との触れ合いや高齢者疑似体験などを通して感じたことや考えたことを共有し、よりよい課題を設定することができる。

(2) 本時の展開 (6/27時)

	○学習活動 主な児童の発言 (C)	・指導上の留意点 ☆評価規準 (方法)
導入 5分	○前時までの活動、前日の給食交流のことを想起する。 ○今日の流れを知る。 ○学習のめあてを知る。	・テレビにこれまでの体験活動の写真を写し、想起しやすくする。
展開 35分	お年よりについて知りたいことを理由をつけて伝え合おう。	
	○高齢者との交流活動を通して、感じたことを全体で共有する。 〔予想される児童の反応〕 C:高齢者体験をしたら動くのがあんなに大変だったのに、お話してみたら元気で楽しそう。 C:お年よりのためにできることはないかな。	・今までのメモを見て記入してもよいことを伝える。 ・机間指導し、問いかけや助言などをする。
	○知りたいこと、調べたいことをワークシートに個人で記入する。 ○4人組のグループで、知りたいこと、調べたいことを短冊に書く。 〔予想される児童の反応〕 C:高齢者の方のための施設やサービスはどんなものがあるのだろう。 ○グループで話し合い、短冊に書いたものの中からみんなで相談したいものや、詳しく知りたいと思うものを黒板に貼る。	・グループで1つではなく、興味があることをいくつでも書いてよいことを伝える。 ☆体験活動などを通して生じた疑問などから課題を設定することができる。【授業中の様子、取り組み、発言、つぶやき、学習カード】 ・似ている疑問はまとめ、種類ごとに分類しながら貼るように伝える。 ・児童がカードの分類を意識できるよう、キーワードを掲示しておく。(キーワードは児童の考えを基に増やせるようにする。)

ま と め 5 分	○本時の振り返りをする。 ○次回の活動内容を知る。	・何人かの振り返りを共有する。
-----------------------	----------------------------------	-----------------

(3) 板書計画



(4) 授業観察の視点

- ・ 単元指導計画は、「いのちに限りがあることを知り、いのちはかけがえのないもの」であることを感じさせるために適切だったか。
- ・ 本時の展開でのワークシートやグループ活動は、めあてを達成するために適切だったか。